

# 兵庫県但馬水産技術センターだより

## 貝毒情報(イワガキ) TKD-04-04 号

令和4年8月10日発行

プランクトン及び貝毒検査を8月8日～10日に実施しましたので、その結果をお知らせします。

### 【概況】

- ・貝毒検査(8/10)の結果、今回検査した地点では麻痺性貝毒は検出されませんでした。
- ・貝毒の原因となるプランクトンはごくわずかに確認されました。

### 【検査結果】

年月日 (採水・採取)		R4.8.8	R4.8.8
地 点 (St.)		香住	浜坂
貝類の毒化状況	麻痺性貝毒(MU/g)	ND	ND
麻痺性貝毒原因プランクトン	アレキサンドリウム カテネラ (旧称) <i>Alexandrium catenella</i> (新称 At complex(旧) <i>A. catenella</i> ) (細胞/mL)	0	0
下痢性貝毒原因プランクトン	ディノフィラス フォルティ <i>Dinophysis fortii</i> (細胞/mL) ディノフィラス アキュミナータ <i>Dinophysis acuminata</i> (細胞/mL)	0	0
		0.002	0

※NDとは検出限界(2.0MU/g)未満のことです。



＜規制の基準＞  
可食部の毒量が、  
麻痺性貝毒: 4 MU/g  
下痢性貝毒: 0.16mg オガ酸当量/kg ] を超えた場合

### ＜注意が必要なプランクトン密度＞

- ・麻痺性貝毒原因プランクトン(代表的な種)  
アレキサンドリウム タマレンセ  
(旧称) *Alexandrium tamarense* 5 細胞/mL 以上  
アレキサンドリウム カテネラ  
(旧称) *Alexandrium catenella* 20 細胞/mL 以上
- ・下痢性貝毒原因プランクトン(代表的な種)  
ディノフィラス フォルティ  
*Dinophysis fortii* 50 細胞/mL 以上

※プランクトン密度の単位は細胞/mLと表記。(海水1mLあたりのプランクトン細胞数)(mL:ミリリットル、1mLは1Lの千分の一)  
※2020年4月以降の貝毒原因プランクトン *Alexandrium* 属種の名称(呼称)について、(国研)水産研究・教育機構瀬戸内海区水産研究所(現 水産技術研究所(廿日市拠点))が提案した呼称に従った表記に変更しています。詳しくは水産機構の関係資料ウェブサイト(<http://feis.fra.affrc.go.jp/plankton/douteiirai/alexandriumindex.html>)をご参照ください。

その他、貝毒については関係資料ウェブサイト(<https://www.hyogo-suigi.jp/wp-content/uploads/2020/11/kaidoku.pdf>)をご参照ください。※(旧称) *Alexandrium catenella*は監視強化のため注意が必要な密度が令和3年11月に改正。

### 【今後の情報予定】

- ・今年度の但馬地域における貝毒調査(定期)は、本調査をもって終了です。

§ お問い合わせ先 §

兵庫県立農林水産技術総合センター但馬水産技術センター (担当: 鈴木 Tel: 0796-36-0395)

兵庫県但馬県民局但馬水産事務所 (担当: 水産課・井筒 Tel: 0796-36-1153)